



第5号
2013年10月16日発行



立命館慶祥 SSH (スーパーサイエンスハイスクール) 特別講演会

『はやぶさ』が挑んだ人類初の往復の宇宙飛行 その7年間の歩み

講師 川口淳一郎先生 (JAXA 教授)



「はやぶさ」が挑んだ人類初の往復の宇宙飛行、その7年間の歩み
宇宙航空研究開発機構 教授 川口 淳一郎 氏

Voyager-1 in 1977

Now that we have new, key data, we believe this is mankind's historic leap into interstellar space," said Ed Stone, Voyager project scientist based at the California Institute of Technology, Pasadena. "The Voyager team needed time to analyze those observations and make sense of them. But we can now answer the question we've all been asking -- 'Are there yet?' Yes, we are."

「学び」から脱却し、自ら「創造」していくことが、大人になることだと気がきました。でもまずは、創造していくための知識を身に付けるために、しっかり学んでいこうと思いました。そしていつか私も新たな発見をし、「初めて」を創造したいです。(1E 渡辺)

特に印象的だったのは「やれる理由を見つけて挑戦」という言葉です。ついで、やらなくても済む理由を探してしまいがちな今の自分自身の勉強への姿勢に結びつく言葉だと思いました。また、完璧主義のピラミッドではなく、細くてもいいから高い塔をつくるべきだという言葉に合わせて、自分を見つめ直すきっかけとなりました。前向きになれる講演会でした。(2A 山口)

一番印象に残ったのは、「見えるものは過去のもの、見えないものは未来のもの」という言葉です。私は今、課題研究をしていて、実験がなかなかうまくいかず、目に見える結果がなかなか出ていません。しかし、まだ見えていない未来のものに向かって、今、苦悩しながらも頑張らなければいけないなと考えることができました。(3D 宮崎)

SSHオーストラリア海外研修報告



「オーストラリア海外研修を終えて」

研修団生徒代表 2年B組 (11) 寺西未有

今回の研修では、日本とオーストラリアの違いからいろいろな発見がありました。

一つ目は高校の授業です。たとえば物理の授業で、日本では公式を学びそれから問題を解くという形ですが、現地の高校では、実験を沢山し、それをグラフ化したりして公式にたどりつかせます。そうすることでより定着し、公式の使用の幅が広まるのかなとも思いました。

二つ目は、オーストラリアの絶景です。日本も自然豊かできれいな絶景はありますが、主に夜景などの人の手が加わった人工風景が多いようにみられます。アデレードでは見渡す限りが緑というような光景があり、自然を生かした広大な土地はこの都市の魅力であると思いました。カンガルー島ではさらに野生動物を加え自然のあるがままの姿が大切にされていました。中でも印象深いものはremarkable rocksです。風雨や波の浸食を受けた約5億年前の花崗岩が、太陽の位置による光のあたり方で色が変わったり、見る場所により岩の形が何かに見えたりする自然の造形美と、そこから見下ろす透き通った南極海の美しさ、周囲の自然豊かな山を見渡し、地球の歴史を肌で体験しました。自然が作り出す光景を私たち人間の心の中にある何が感動につなげているのか、不思議に思います。人間が作り出す造形美も、はじめはすべてこのような自然の美しさが原点ではないかなとも思いました。私はこの光景を見たとき何か、再出発をしたような気持ちになりました。

今回の海外研修からの帰国を境に、新たに気持ちを切り替え、この体験を今度は自分の進路実現に役立て、努力していきたいと思えます。